

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 089	提案機関名 神奈川県内水面漁業協同組合連合会
要望問題名 アユの資源増殖技術の確立について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 毎年、アユ資源を保護・培養し、産卵場を造成し、相模湾産アユの資源増大に努めています。しかしながらこれら事業を体系的に整理し、数値目標を掲げて、増殖をして行くための技術確立が必要と考えます。 近年では、短期継代種苗の導入と相まって、河川におけるアユ資源は豊かになっていますが引き続き良好な資源状況が維持されているように、資源増殖技術期の早急確立を実現願いたい	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	水産技術センター	担当部所	内水面試験場
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 アユの資源増殖研究は、これまで長期にわたって全国で実施されておりますが、数値目標を掲げて増殖手法を体系的に検討するという取組は、幾つかのごく小規模な河川において実施されているのみです。このような中、相模湾産アユの資源増大を目的とする場合、様々な規模の河川が広範囲に対象となりますので、相応の実施体制を確保し時間をかけて新規の技術開発を行う必要があります。まずは、流下する仔魚数を確保するための産卵場造成手法の確立・普及から開始することが次善の策と思われれます。 現在、貴連合会が実施する産卵場造成事業において調査協力を行っておりますが、産卵場造成手法を確立するためには、このような事業を数年間継続する必要がありますので、今後も調査協力などにより対応をしてまいりたいと考えております。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			